

北ア西穂高岳山行記録

記:鳥切昇治



西穂高岳山頂(槍ヶ岳:左奥、涸沢岳:中央、ジャンダルムから奥穂:右)

期 日:2017年5月19日～5月21日

山 域:北アルプス 西穂高岳(2909m)

メンバー:大和義孝(80歳)・田辺浩二(80歳)・鳥切昇治(77歳)

行動記録

5月19日(金)天候:快晴 横浜～新穂高温泉～西穂山荘

早朝、田辺さんがマイカーで鳥切宅に来て鳥切車に荷物を積み替え、大和宅へ向かう。三人が顔を揃え横浜を出発する。海老名ICで圏央道、八王子JCTから中央道に入る。車は多いが流れは良い。初狩PAとみどり湖PAでトイレ休憩する。途中、車窓から南アルプスと八ヶ岳が良く見えた。長野道の松本ICで一般道に下りる。国道は流れが良い。

新島々のコンビニで昼食の弁当を調達して新穂高へ向かう。上高地にはマイカーの乗り入れが出来ないので置いておく場所を確認する為、平湯で帰りの駐車スペースをチェック

する。新穂高の無料駐車場の奥に駐車する。駐車している車は少ない。

天気が良いので車の脇で買って来た弁当を食べる。ロープウェイの発車時間を気にしながら身支度を整え、ロープウェイ乗場へ向かう。

ロープウェイの乗客は観光客ばかりで外国人も混ざっている。鍋平高原駅でロープウェイを乗り継ぎ西穂高口駅に到着。4階の展望台に上がる。独標から西穂高岳までの岩峰の



西穂高岳から独標の稜線



西穂山荘が見える

稜線が青空の中にハッキリ見える。槍ヶ岳、笠ヶ岳、遠くに白山の山並み、焼岳とすばらしい眺めである。西穂山荘へ向かう。シラビソ林の中の雪道だが歩き易く、アイゼンもいらなない。途中から急坂の登りとなる。1人の登山者が勢い良く下って来て登りのステップをメチャメチャに崩しながら下って行った。腹が立つ。2回の小休止を入れ、順調なペースで登り西穂山荘に着いた。



西穂山荘に到着



丸山から独標

時間が早かったので大和さんと丸山まで行って来る。登り15分程で着いた。独標が目の前に見え、右に吊尾根から前穂と明神、大天井～常念～蝶の稜線、眼下に上高地、大正池、焼岳の奥に乗鞍岳、西に笠ヶ岳～双六～鷲羽の稜線が手に取るように見える。

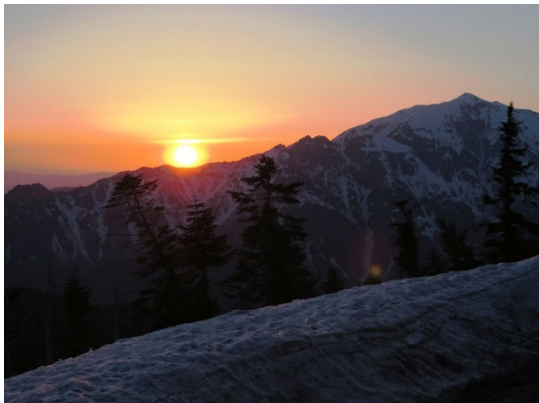
西穂山荘に戻り、2階の部屋に入る。後から今日西穂へ登ってきたと言う2人が同室とな

る。布団を敷いて夕食まで休む。大和さんの体調が余り良くないということで明日の西穂は一人で登ることになった。二人は独標までにすると言う。

西穂山荘の宿泊者は10人程で夕食時も静かである。笠ヶ岳の左に沈む夕日がきれいだった。



西穂山荘の夕食



笠ヶ岳の稜線に日が沈む

コースタイム

鳥切宅 5:24—大和宅 5:33—6:21 海老名IC—6:41 八王子 JCT—7:07 初狩PA7:12—8:33 みどり湖PA8:33—松本IC8:51—9:00 新島々(コンビニ)9:17—10:24 新穂高(駐車場)11:11—11:27 新穂高温泉駅 11:30—(ロープウェイ)—11:53 西穂高口駅 12:25—14:10 西穂山荘(泊) (丸山往復)

5月20日(土)天候:快晴 西穂山荘～西穂高岳(ピストン)

大和さんと田辺さんに見送られて西穂山荘を出発する。二人は独標までなので、朝食後単独で西穂高岳に向う。喜寿を迎えて最初の登山である。

風も無く快晴。景色がすばらしい。雪面は朝の冷え込みで凍っているので夏道を歩く。丸山まで来ると前穂が見えて来た。独標山頂の標識杭が青空の中に小さく見える。

這い松沿いの夏道を登る。ピーク手前の急な斜面を登ると独標だった。時間的に1時間経っていなかったのが予想外だった。向かう先に三つのピークが見える。三つ目が西穂高岳の様だ。丸山まで登って来ていた大和さんと携帯で情報連絡する。次に向うピラミッドピークはピラミッドのように格好が良い。



西穂高岳独標(後方は笠ヶ岳)

独標から一旦下って登り、部分的に悪い所もあって注意して登る。ピラミッドピークに立つと西穂が見えなくなっていた。



ピラミッドピーク(右後方はジャンダルム)



独標から西穂高岳(右後方はジャンダルム)尾根筋にはほとんど雪は無く、岩稜の上り下りが続く。4峰まで来ると二つのピーク超しに西穂が見えて来た。4峰の下りで雪壁

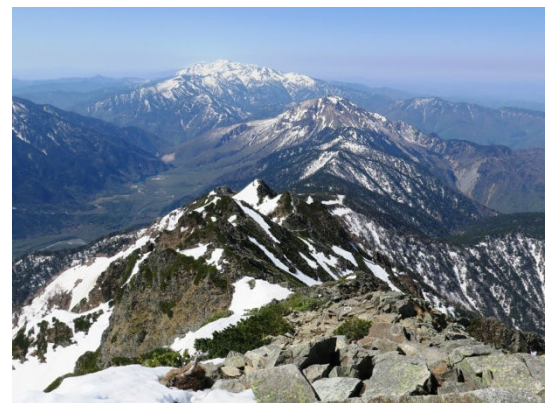


4峰から西穂高岳



西穂高岳山頂からジャンダルム・奥穂・前穂

が凍っていて慎重に下る。西穂高岳への登りで20mほど雪の斜面にトレースが付いている。アイゼンを着けなくても歩けると判断し、凍っているステップを滑らぬ様慎重に歩く。西穂高岳山頂に到着。少し靄っているが360度のすばらしい眺めである。ジャンダルムから奥穂に続く稜線、吊尾根から前穂、ジャンダルムから左側に槍ヶ岳、双六から笠ヶ岳に続く稜線、南側に焼岳と乗鞍岳、足元に上高地、登って来た独標からの岩稜、西穂山荘の赤い屋根も見える。



西穂山頂から上高地と焼岳・乗鞍岳

大和さんに携帯で西穂高岳に到着した旨連絡する。あつと言う間に時間が経過する。誰も居ない西穂高岳を後に下山する。

2峰の下付近で西穂山荘に同宿の方が登って来た。ピラミッドピーク手前では同部屋だった二人と話を交わす。西穂まで行って来ると登って行った。土曜日だが登山者が少なくて静かである。

独標に着いて大和さんと携帯で連絡を取る。丸山に居るとのこと。二人を追うように独標を後にする。

急斜面を下ってから左側の雪の斜面に出て雪上を快適に下る。西穂山荘前のベンチで休んでいる二人が見えて「ヤッチョー」をコールする。無事西穂山荘に到着して握手を交わす。

汗をかいたシャツを干し、ゆっくり昼食をとった後、西穂山荘を後にする。シラビソ林の中の下りは涼しい。登って来る登山者が多くなる。順調にロープウェイの西穂高口駅

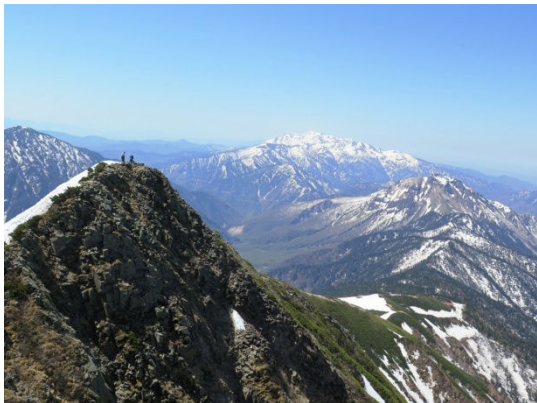


宿(たきざわ)で寛ぐ

コースタイム

《鳥切》西穂山荘 6:26—6:42 丸山—7:28 独標 7:36—8:49 西穂高岳 9:17—10:20 独標 10:23—10:59 西穂山荘

西穂山荘 12:00—13:06 西穂高口駅 13:15—(ロープウェイ)—13:40 新穂高口駅—13:50 駐車場 14:00—14:06 宿(たきざわ)



左はピラミッドピーク、右奥は焼岳と乗鞍岳

左はピラミッドピーク、右奥は焼岳と乗鞍岳



西穂高口駅まで下山

に着いた。ロープウェイの発車時間にちょうど間に合い新穂高駅まで下る。下山届けを提出して新穂高の無料駐車場まで歩く。

予約してある中尾温泉の「たきざわ」に車で向う。

5月20日(土)天候:快晴 西穂山荘～西穂独標 (この項のみ大和記)

田邊さんと大和は鳥切さんを送り出した後、余分な食料などを山荘にデポし出来るだけ身軽にし6:50に山荘を出発する。携帯電話に電源を入れいつでも鳥切さんと連絡が出来る

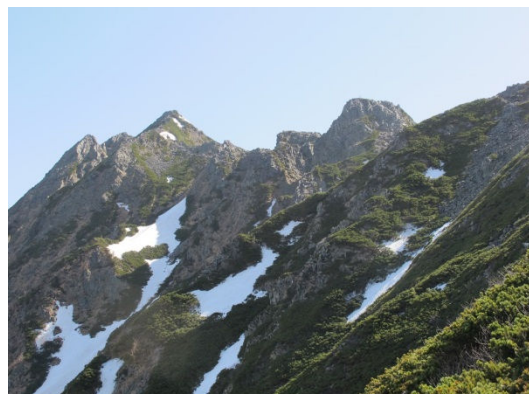
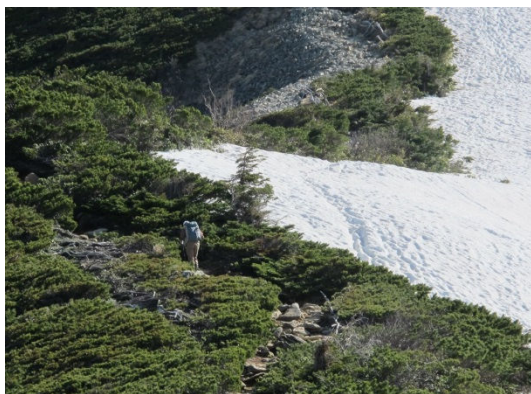


山荘近くの雪渓を登る田邊さん



丸山から見た西穂高岳への稜線

る様にして置く。山荘を出るとすぐ雪渓になり、雪は適度に締まってアイゼンを付けなくとも快適に登れる、雪渓を 20mも登ると大きい石が積み重なった夏道に出る。夏道には雪は無いが歩き難い。この石のごろごろしたところを過ぎると這松帯の中のなだらかな道になり歩き易い。15分程で丸山に着く。天気が良く360度視界が広がり、稜線は北東方向に伸



丸山を過ぎ這松の中の道を行く田邊さん 岩稜帯の稜線、独標とピラミッドピーク

び這松の中に登山道がハッキリ見え、その先に独標、西穂高が有る。西穂高に向かって右側下には梓川、赤い屋根の帝国ホテルその向こうに霞沢岳、左側には笠が岳、後ろを見ると焼岳、その向こうに乗鞍岳が見える。雪は西穂に向かう稜線の右側にあり夏道には雪が無い。



独標（手前）とピラミッドピーク



手前のピークからの独標

暫くすると独標の鳥切さんから情報連絡が入る。鳥切さんの歩く速さに驚いた。丸山から登山道はやや急になりジグザクに 50 分程登り休憩していると山荘で同部屋だった65歳と30代位の男性二人が登ってくる。聞けば65歳の方は昨日足がつって西穂高岳に行けなかったのでリベンジとの事。二人には先に行って貰う。暫く歩くと独標手前のピークに着く。そこから 5m程岩場を下ると独標基部に着く。約2時間かかっている。ここで15分程休憩し

引き返す。見上げると独標頂上までは今にも崩れそうながららの岩で覆われている。

元来た道を下る。途中で単独で写真を撮りに来ている女性と会う。一時間程で丸山に着く。暫く休憩した後下ると登ってくる若い男女5,6人のグループに会う。西穂山荘に 10:50頃着き鳥切さんの来るのを待つと、ほどなく鳥切さんが降りてきた鳥切さんの速さとタフさには恐れ入りました。



独標基部に立つ田邊さん

コースタイム

《田邊、大和》西穂山荘 6:50—7:05 丸山 7:30—8:20 休憩 8:30—9:00 独標基部
9:15—10:15 丸山 10:30—10:50 西穂山荘

5月21日(日)天候:快晴 中村・安部両氏追悼・上高地散策～帰宅

宿の朝食が7時半で食事をしてから出発する。沢渡第二駐車場に車を入れ、タクシーで上高地へ向かう。帝国ホテル手前で下車。帝国ホテルとは反対側の空き地から熊笹をかき分けて踏み跡を辿るとお墓が点在している所に着いた。中村・安部両氏のお墓を探す。右手の方で探していた大和さんがお墓を見つけた。レリーフの上の苔と落葉を払い周りを掃除して黙祷する。



中村・安部両氏のお墓に黙祷



中村・安部両氏のお墓

帝国ホテルの方に戻り、梓川の方へ歩く。橋を渡ってウエストーン碑を訪れる。清流が流れ、小鳥のさえずりが聞こえて清々しい。河童橋まで歩く。カラムツの新緑が目にも柔らかい。

見慣れた景色とは言え、河童橋から岳沢越しの穂高の眺めは飽きることはない。河童橋袂のベンチでしばし休む。



ウエストーン碑の前で



河童橋から穂高連峰

上高地バスターミナルでタクシーに乗ろうとしたら若い家族連れから相乗りにも誘われ同乗する。沢渡の第二駐車場に戻り帰路に着く。

高速に乗る前に昼食にソバを食べようと松本 IC 手前の「ものぐさ亭」と言うソバ屋に入る。

ざる蕎麦がおいしかった。

中央道は上野原から小仏トンネルまで渋滞したが左程時間がかからずに抜け、圏央道の海老名ICで高速を下り横浜に戻った。

コースタイム

宿(たきざわ)8:00—8:37 沢渡(駐車場)9:10—9:20 帝国ホテル前—中村・安部両氏お墓 9:30—上高地散策—上高地バスターミナル 11:00—11:15 沢渡(駐車場)11:40—12:15 ものぐさ亭(昼食)12:45—12:58 松本IC—14:20 初狩PA14:27—八王子 JCT15:14—海老名IC15:30—16:15 大和宅 16:20—16:27 鳥切宅 (全走行キロ数 578km)

以上